

土台支持柱

松本城は、女鳥羽川と薄川が形成した沖積平野に建つ。軟弱な湿地帯であるため、城の建設は困難であったが、天守閣が徐々に沈んでいくを防ぐために、革新的な建築技術が用いられた。まず、城の基礎を支えるための足場が作られた。

長さ 5 メートル、直径 36.3～39.3 センチの榎の木柱 16 本を、4×4 のグリッド状に配置した。そして、柱と柱の間を梁で結び、その上に人工的な丘を築き、その上に基礎となる石垣を築いた。この補強された土台が、1,000 トン近い大天守の重量を支えているのである。

この柱は、1950 年代の大修理で出土したもので、そのうちの 1 本がここに展示されている。この大修理では、木造の柱をコンクリートで固め、安全性と耐久性を向上させた。